地域と医療で咲くコミュニケーション

# あまが咲だより

2015
7月
No.14

兵庫県立尼崎総合医療センター

[院長挨拶]

## 統合新病院「兵庫県立尼崎総合医療センター」本格稼動！

統合新病院
「兵庫県立尼崎総合医療センター」
（尼崎市）

[各科紹介] 救命救急センター

●尼崎市長からお祝いの言葉
●県立尼崎総合医療センターでは、ここが新しく変わります！

# 病院長挨拶

兵庫県立尼崎総合医療センター
院長　藤原 久義
Hisayoshi Hujiwara

# 統合新病院「兵庫県立尼崎総合医療センター」本格稼働！

## 2015年7月6日から本格稼働を開始
## ― 統合移転に際しては、本当に、ご協力ありがとうございました ―

兵庫県立尼崎病院と県立塚口病院は7月1日、無事、統合新病院「兵庫県立尼崎総合医療センター：Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center：Hyogo AGMC」への統合移転が終わり、7月6日から本格稼働を開始しました。統合移転に際しては患者さんや近隣医療機関の皆様には、大変、ご迷惑をお掛けしました。本格稼働当初は受付等で混乱があり、患者さんにご迷惑をお掛けしたことをお詫びいたします。一週間経ち、ようやく、改善してきました。多くの紹介患者さん、救急患者さん等に来ていただき、本当にありがとうございます。皆さまのご期待に応えられるように頑張りますので、一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

## ご来院、ご紹介をお待ちしています

新病院の詳細についてはホームページをご覧ください。

新病院は、７３０床（重症系病床数１４５床）、医師数３００名、看護師数1,０００名以上という大きな病院です。尼崎市のみならず、人口約１７５万の阪神南・北地域全体を対象にした大規模なＥＲ型救命救急センター（小児・成人の1次から3次救急まで）、総合周産期母子医療センター、循環器センター、消化器センター、がんセンター、脳卒中センター、生活習慣病センター、ハイブリット手術室やロボット手術室を含む１８手術室、最新鋭のがん診断（ペットＣＴ）・治療設備（ＩＭＲＴ２台）、３０床の外来化学療法室等が動き出しました。診療・教育に加えて、研究も重点課題とする我が国を代表する高度急性期医療・高度専門医療を担うマグネットホスピタルです。

超高齢化社会を迎え、いわゆる“２０２５年問題”に対応するため、これまでの病院完結型医療から阪神南・北地域完結型医療・介護へという国の医療計画「地域包括ケアシステム」のモデルケースを目指し、社会貢献します。また、医療機関情報と患者情報共有化のための新しい試み「阪神医療福祉情報ネットワーク（ＩＣＴ化）システムh-Anshinむこねっと」にも引き続き協力させていただきます。

一流の設備と医療スタッフに加えて、患者さんの心のケアにも配慮した明るい病室や緑が一杯の病院です。統合新築病院に対する皆さんの期待の大きさをひしひしと感じています。それにお応えするように頑張ります。ご来院、ご紹介を、職員一同、お待ちしています。

平成２７年７月　兵庫県立尼崎総合医療センター　院長　藤原 久義

救命救急センター

# 全診療科で支える ER型救命救急センター

三列目左から：堀谷医師、松尾医師、長永医師、吉田医師
二列目左から：山本医師、井場医師、野田医師、生田医師、栗本医師
一列目左から：坂本医師、豊岡医師、吉永医師、麻岡医師、菅医師

**救命救急副センター長**
**ER総合診療センター**
センター長·ER総合診療科長

## 吉永 孝之

昭和60年　自治医科大学卒
ER総合診療センター長として救命救急センターと総合診療部門を統括。
専門医資格：
日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医
ICD(infection control doctor)認定医

ER
総合診療科

## 救命救急センターの概要と特色

### 特色1 専門疾患に対応した大規模なICU

当院救命救急センター初療室(救急外来にて初期診療を行う部屋)は、感染症専用部屋を含む1次初療室8室、2次初療6室、3次初療4室あります。救急専用の入院病棟は、E-ICU14床、1F救急病棟16床、5Fの救急病棟24床からなりますが、他にも専門疾患用のCCU(循環器疾患)、GICU(緊急手術後)、SCU(脳卒中)、P-ICU(小児科)、MFICU(母体·胎児)などの集中治療室を備え、日本有数の規模を誇ります。

### 特色2 ER総合診療センターの医師を中心とし、全科でサポートする救急医療

当センターは北米型ER体制をとり、1次～3次(軽症～重症)のあらゆる救急患者に対応します。すなわち、診断をいかに早くつけて専門医に引き継ぐか、全身状態の悪い患者の病状をいかに早く改善できるかが大切な業務となります。当センターの救急初療は、ER総合診療科と救急集中治療科で構成された「ER総合診療センター」の医師と小児科·小児救急集中治療科の医師が担当し、必要に応じて各診療科の当直医/オンコール医がバックアップします。ER総合診療センターの医師を中心として、院内すべての科が参加して救急患者に対応することが当センターの大きな特徴です。

### 特色3 24時間体制の緊急検査·治療と緊急手術

検査関係では、CT、MRI、脳波、各種血液検査も24時間体制で行っています。心筋梗塞に対する緊急心臓カテーテル処置、消化管出血に対する緊急内視鏡止血処置、脳卒中に対しての血栓溶解治療も当該科により24時間体制で行います。また、緊急手術用の手術室も2室確保され、各外科系緊急手術も24時間体制をとっています。

救急集中治療科

ER総合診療センター
救急集中治療科長

## 鈴木 崇生

平成8年　京都大学医学部卒
日本医科大学付属病院　高度救命救急センター
京都大学付属病院　初期診療・救急医学講座講師
専門医資格:
日本救急医学会指導医、救急科専門医
日本外科学会専門医
日本DMAT隊員、JATECインストラクター

後列左から：松本医師、鈴木医師、豊田医師、恒光医師、生田医師
前　　列：田中医師

▲2次初療室

▲3次初療室

▲点滴室

副院長・救命救急センター長

## 佐藤 愼一

専門医資格:
日本救急医学会指導医、救急科専門医

### 特色4 広域災害や大規模な事故への対応

ドクターカーの運用も行い、病院外での初期対応や重症患者の病院間の搬送とともに、広域災害時や大規模な事故の場合にはDMATカーとして出動し現場での災害救急活動を行います。屋上にはヘリポートが設置されており、ヘリコプターによる重症患者の広域搬送も可能となっています。

### 診療体制

24時間、365日体制。ER総合診療センター医師、小児科、研修医を合わせて6～8名が常駐。

### 対象とする患者さんは

種々の状況の患者さんに対応しますが、①3次救急患者、②地域医療機関からの紹介患者（医師からの依頼が必要）、③救急隊からの搬送依頼患者を優先的に受け入れます。

### 夜間の小児救急に関して

夜間24時までは、尼崎休日夜間急病診療所（06-6436-8701）にて小児科診療を行っています。それ以降の小児科診療をご希望の方は、一旦、あまがさき小児相談ダイアル（06-6436-9900）に電話相談をしていただき、応対した看護師の受診指示があった方を当院で診療をいたします。

### 患者さんへのお願い

重症の患者さんを最優先で診るための救命救急センターです。軽い症状での多くの患者さんが受診されますと、本来の救命センターで診る必要のある患者さんを迅速に診ることができなくなります。そのために当センターにお電話をいただいても、一度地域の休日診療所などをお勧めすることがありますが、ご理解をよろしくお願いいたします。

# 新病院に期待を寄せて

尼崎市長　稲村 和美

## 兵庫県立尼崎総合医療センターの開院を心からお慶び申し上げます。

このたび、記念すべき開院の日を迎えられましたことは、藤原久義院長をはじめ、関係者の皆様方のご尽力の賜物であると深く敬意を表します。

尼崎総合医療センターは、県立尼崎病院と県立塚口病院の統合により、７３０床を擁する県内最大規模の公立病院として新しく誕生されました。

尼崎病院は昭和１１年、塚口病院は昭和４９年の開院以来、それぞれ時代とともに変わる患者のニーズに応え、尼崎市はもとより阪神地域における高度・専門医療を担う基幹病院の役割を長きにわたり果たしてこられました。今日まで市民の健康を日々支えていただきましたことに対し、ここに改めまして厚く御礼申し上げます。

新しい尼崎総合医療センターは、両病院の伝統を引き継ぎながら、２４時間３６５日対応の高度な救急医療をはじめ、妊婦・新生児に対する総合的周産期医療、がん等の５疾病の高度専門医療などの機能充実が図られるとともに、災害時にも機能できる安全安心の拠点病院に生まれかわりました。また、研修・研究施設の整備による高い人材育成機能、大規模太陽光発電や省エネルギー対策の導入など環境に優しいエコホスピタルもその大きな特徴となっています。まさに、医療従事者の方だけでなく、患者の皆様を高い信頼とともに引きつけることができる「マグネット・ホスピタル」として飛躍されることでしょう。

このような素晴らしい病院が本市に立地することを大変うれしく思うとともに、市民の健康課題に真摯に向き合う尼崎市としましても、今後のまちづくりを進めていく上で欠かせない存在として大きな期待を寄せております。

センターの皆様方におかれましては、引き続きの連携と協力を心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、兵庫県立尼崎総合医療センターのさらなるご発展と皆様方のご健勝並びにご活躍を祈念いたしております。

# 県立尼崎総合医療センターでは、ここが新しく変わります！

## NEW 1 診療機能が新しい

### 高度急性期・高度専門医療の地域拠点病院として貢献します

◆総合診療科医と救急専門医が診る「ER型救命救急センター」を設置し、救急患者へ対応を強化

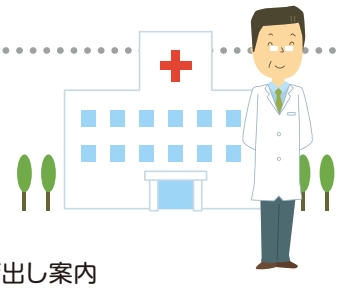
◆「小児集中治療室」を設置し、小児中核病院として重症小児患者に救命救急医療を提供

◆42診療科による総合診療体制と臓器・疾患ごとのセンター制を導入し、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患（身体合併症を有する）への高度専門医療を提供

◆安心出産を支える「メディカルバースセンター」とハイリスク妊娠への対応を充実させた「総合周産期医療センター」の設置

◆最新鋭リニアック放射線治療装置、ロボット手術装置、PET-CT、ハイブリッド手術室などの最新設備

## NEW 2 外来受診が新しい



### 新しい取り組みで、スムーズな外来受診

◆「かかりつけ医から当院へ、当院からかかりつけ医へ」。紹介状を介した紹介と逆紹介システムの促進

◆再診受付機にて迅速・簡単な自動受付

◆外来診察・検査時での、個別の呼出受信機を用いた呼び出し案内
利点1：お名前を呼ばれることはありません。着信音・点滅・振動でお呼び出しします。
利点2：診察室の前でじーっとお待ちになる必要はありません。院内どこにおられてもOK!

◆診療費のお支払いは、診療費支払機で自動精算。クレジットカードもOK！

## NEW 3 入院生活の快適さが新しい

### 「ゆとり」と「快適さ」のある患者さん本位の入院生活

◆シックな木目調の病棟と病室。温かみと落ち着きのあるゆとりの空間を演出

◆入院は、ゆったりとした個室療養を基本

◆4床室でも個室感覚で過ごしていただけるように、全床にプライベートウィンドウを実現

◆小児・周産期病棟では、母子が安らぎを感じられるような工夫と小児向けプレイルームなどアメニティ重視

## 編集後記

最近、けたましく鳴く蝉の声で、朝眼を覚まされる方も多いのではないでしょうか？つい先日まで、病院移転のためバタバタしていたかと思っていたのですが、もう夏到来ですね。照りつける陽射し。夏と言えば、気になるのが熱中症。こまめな水分補給などの対策にて、くれぐれも、新病院へ搬送されないようにお気を付け下さい。　（H. S）

兵庫県立尼崎総合医療センター
Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号　TEL 06-6480-7000（病院代表）　FAX 06-6480-7001
URL：http://agmc.hyogo.jp/

兵庫県立尼崎総合医療センター　検索

発行　兵庫県立尼崎総合医療センター　企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社